

カーリング信州 歩み振り返る

県協会初代理事長の故小林さん 記念誌完成

8日に77歳で亡くなった県カーリング協会初代理事長でNPO法人あさまハイランドスポーツクラブ（御代田町）理事の小林貞雄さん。御代田町御代田IIが約2年かけて編集した記念誌「みすゞかる・信濃の国カーリング文化史」がこのほど完成した。同クラブが運営するカーリングホールみよた（同町）の開設20年を記念して作成。1998年長野冬季五輪までの県内でのカーリングの歴史や協会の歩みなどをまとめた。

戦前、日本にカーリングを紹介した岡谷市出身の故・青木末弘氏の功績、87（昭和62）年の佐久メイプルカーリングクラブと協会の発足、95年のカーリングホールみよたの完成などについて、写真や資料を交えて記録している。長野五輪のカーリング会場となった軽井沢町での盛り



小林貞雄さん

小林さんがまとめた記念誌を手にする協力者の土屋さん



御代田 長野五輪への思いなどつづる

上がりを伝える写真も載せた。後書きで小林さんは、カーリングホールみよたの建設は長野五輪で日の丸を上げることが最大の目的だったと振り返る一方、「（カーリングの）文化史を整理して、心の変化が明らかに顕在化してきた。メダル以外に、人間にとって価値のあるものは、他にありそうだ」と思いをつづった。

編集協力者で、長く親交があったあさまハイランドスポーツクラブ代表理事の土屋美喜子さん（57）は、小林さんが後年、地域に根差したカーリング文化を広げたいと願い、力を注いだと強調。記念誌について「皆さんが、それぞれの舞台でカーリングの過去を知り、次代へとつなぐきっかけになるといい」と話している。

A4判、224ページ。非売品。関係者に配るほか、希望者にも無償で提供するが、併せて認定NPO法人格取得に向けた寄付（1口3千円）の協力を呼びかけている。問い合わせは同クラブ（☎0267・32・0019）へ。記念誌作成は、本年度の県の地域発元気づくり支援金を活用した。